



アスパラガス栽培暦

J A さ が 東 部 地 区
J A さ が 神 埼 地 区
三 神 地 域 農 業 指 導 者 連 絡 会

～安全・安心なアスパラガスを供給しよう～

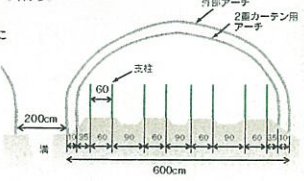
月	～11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
一年生株	排水対策(弾丸暗渠) 堆肥投入 深耕				元肥施用・耕起作畦	定植 支柱・ネットの設置	支柱の高さ 1.1m 1.2m 支柱 1.1m 1.2m	倒伏茎の除去	茎の整理 ハウス周囲の排水溝整備	遮光 ネットの高さ 1m 60cm 1.1m 1.2m			刈り取り前まで灌水
二年生株		保温開始 灌水・ 追肥施用 畦面焼却 畦面焼却 畦面焼却 畦面焼却	収穫	立茎開始 追肥施用		摘芯				追肥			
多年生株		保温開始 灌水・ 追肥施用 畦面焼却 畦面焼却 畦面焼却 畦面焼却	作畦・灌水・保温開始 葉面散布・冬肥施用・堆肥施用 葉面散布・畦面焼却	収穫	立茎開始 追肥施用	摘芯	摘芯位置 1.1m 1.2m 60cm 支柱除去	ハウス周囲の排水溝整備	遮光			収穫終了	刈り取り前まで灌水

萌芽収穫中の温度
最高温度：35℃
最適温度：25～30℃
最低温度：5℃(夜間)

1年目の管理

定植準備

- 土づくり
 - 各ハウスに1本はコルゲート管を施工し、それに直交に1～1.5m幅で弾丸暗渠をひく。
 - 秋～冬にかけてワラやもみ殻、堆肥等をできるだけ多く投入し、数回に分けて深耕する。
 - ハウスの周囲の土を10～15cm幅とりハウス内へ入れる。
- 畦づくり
 - 重粘土地帯では、土壌が小さくなりすぎないように耕起する。
 - 元肥施用後、ハウスに合わせて右図のように畦を作る。
 - 畦は畦面が平らな台形とする。



定植

- 1畦1条植え
- *6m間口 4畦 株間30cm 2,100本/10a
- 定植は、根鉢を少し埋める程度を目安に行う。
- 定植後、根鉢が乾かないよう株元に灌水し、畦面に朝肥や堆肥を施す(乾燥、雑草防止)。
- 活着後はチューブ灌水に切り替える。

本圃管理

- 支柱・ネットの設置
 - しっかりした支柱を高さ1.1～1.2m、2.0m間隔で立て、ネットを張る。
 - 生育に応じてネットを徐々に上げていき、最終的に1段目は高さ60cm、2段目は100cmに設置する。
- 茎葉の整理
 - 新しい茎が随時出てくるので、定植時からの古い茎は倒伏してから徐々に切り取る。
 - その後、込み合うようであれば随時茎の整理を行う。
 - 1株、10mm前後の茎を7～8本以上確保する。
- 刈り取り～保温開始時期
 - 刈り取りは12月上旬に行い、茎葉はハウス外へ持ち出し、処分する。
 - 保温開始前に数回に分けて十分灌水する。
 - 保温開始後、萌芽が8割程度揃うまで蒸し込み状態にする。萌芽が揃ってからはハウス内の温度が35℃以上にならないよう換気に努める。
 - 気温が低い時期での栽培となるので、夜間の低温に注意し、必要ならば霜対策を行う。
- 立茎
 - 立茎開始の目安は35日前後とする。
 - 立茎は太めのM茎(8～10mm)を選び、拳幅以上の間隔で配置する。
 - 1ヶ月以内に1株当たり3～4本を獲し、1～2週間以内に全体の8割程度を確保する。

多年目以降の管理

土づくり

- 土壌分析に基づいて冬肥を施用する。
- 石灰質材等の土壌改良材はできるだけ土と混和する。

本圃管理

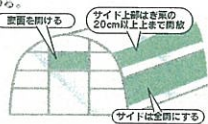
- 立茎
 - 立茎開始の目安 45日前後
 - 前年秋の生育に合わせて立茎開始の開始時期を決める。立茎開始が遅れると、株の消耗が進み収量低下につながる。
 - 立茎は1～M茎を選び、およそ15cm間隔で畦全体にバランスよく配置する。
 - 立茎開始から1ヶ月以内に、18～22本/2mを獲す。
- 追肥
 - 立茎開始前後に追肥を施用する。
- ネットの設置
 - 立茎開始前に、ネットを2段張りに設置する。
- 摘芯・茎葉管理
 - 茎は110～120cmで摘芯する。
 - 1段目のネットまでの下枝は、通風、両面取りを良くするために摘除する。
 - 立茎後7月末まではおき芽は随時除去し、8月からは除去しない。
- 茎葉の刈り取りおよび保温開始時期
 - 刈り取りは12月下旬以降に行う。
 - 茎葉はハウス外に持ち出し、畦と通路の全面を十分にバーナーで焼却する。
 - 保温開始前に数回に分けて十分灌水する。
 - 1月中旬～2月上旬に保温(二重被覆)を開始する。
 - その後、萌芽が揃うまでは蒸し込み状態にするが、高温障害が出ないよう気をつける。

共通する管理

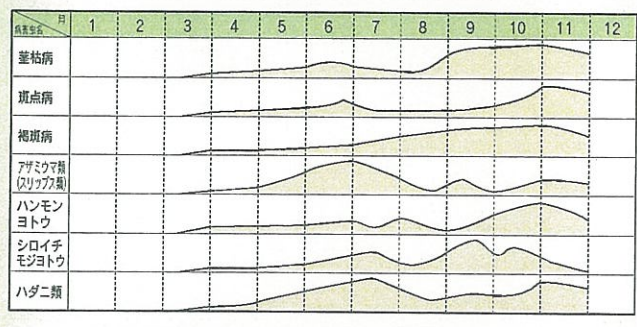
- 追肥
 - 全収獲量が100kg/10aに対して、チッソ成分を2kg/10a施用する。
 - 少なくとも、間隔は7日以上空けない。
- 灌水

時期	方	法
立茎まで	保温開始前に2～3回に分けて十分に灌水する。	
	収穫期には、3～5日毎に午前9～11時に灌水する。	
立茎以降	土壌が乾燥しないよう随時灌水する。茎葉を濡らさないよう心がける。	
	基本的には晴天日の午前中に行い、夏場は夕方灌水する。	
	土壌水分を確認し、少量多回で行う。	
収穫終了後	1回の灌水量は少量で灌水するが、3～4回に1回は通常より2～3倍以上の灌水を行い、土壌の水分ムラを無くす。	
	養分転流期は萌芽部分を乾燥させないよう、5～7日毎に定期的に灌水する。	

- 防除
 - 葉害防止のため、防除前日に十分灌水し、ハウス内が30℃以下の状態で散布する。
 - 圃場内の病害虫の発生状況を確認し、発生前からの予防散布を心がける。
 - ハウス周辺の除草を行い、害虫の生息場所を作らないようにする。
 - サイド、肩、妻面等を解放し、圃場内の通風を図り、除湿に努める。
- 高温対策
 - サイド、妻面を解放し、十分な換気を行う。
 - ハウス内下温対策として、遮光資材を活用する。
 - ハウスターレを天井ビニールへ吹きつける。
 - 内カーテンを上部に展開する。
 - 寒冷紗、遮光被覆資材を被覆する。
 - 遮光は前雨明け～9月上旬までとする。



病害虫の発生消長



防除のポイント

- 斑点病・褐斑病
 - 立茎し、根葉が展開し始めたら、7日間隔で2～3回連続で葉剤散布する。
 - その後は月2回を目安に行う。
- 茎枯病
 - 降雨が降り込みやすいハウスサイド部の比較的新しい茎に発生しやすい。
 - 立茎後の発病株は伝染源となるため、見つけ次第地際部から切断し処分する。
 - 立茎時から1週間毎に2～3回、連続して予防散布する。
 - 多発圃場は、立茎開始と同時に5日間隔で4～5回連続して散布する。
 - 暴風雨前に、予防散布を行う。